

2024 年度第 1 四半期決算説明会における主要な質疑応答

質問	回答
2024 年度第 1 四半期の実績について、通期計画に対する進捗状況をどのように評価していますか。	為替が計画前提レートよりも円安で推移した影響を除いても、全体としては想定範囲内での着地だと認識しています。ただし、事業別の進捗率には差があり、航空エンジン事業と船舶海洋事業が想定を上回った一方、パワースポーツ&エンジンは下回りました。それぞれの要因は次の通りです。 ＜航空エンジン事業＞ 旅客需要の回復によってアフターセールスが堅調に推移していること ＜船舶海洋事業＞ LPG 運搬船の連続建造による習熟度の向上や、中国合併造船所の採算性の向上 ＜パワースポーツ&エンジン＞ オフロード四輪車のリコール等により 4～7 月に販売が落ち込んだこと
2024 年度第 1 四半期は、前年同期比で販管費の増加（+114 億円）が目立ちますが、背景を教えてください。	前年同期に比べて円安が進行した結果、特にパワースポーツ&エンジンにおいて海外子会社の販管費が増加しました。加えて、賃金上昇に伴う人件費の増加や、エネルギー価格の上昇による国内事業所における水光熱費等の増加がありました。
潜水艦修繕工事に係る不適切行為問題によって、今後、防衛事業の受注に悪影響が出る懸念はありますか。	防衛事業の受注計画に対して、本件問題に起因する影響は織り込んでいません。現在、特別調査委員会による調査が進んでおり、報告すべきことが判明しだい、逐次報告していくほか、全体の調査については、年内を目途に最終的なご報告を予定しています。
精密機械・ロボットの第 1 四半期事業損益について、前年同期比での増益要因を事業環境の状況とあわせて教えてください。 ※精密機械・ロボット事業損益 2023 年度 1Q：▲25 億円 2024 年度 1Q：▲1 億円	精密機械・ロボットの事業損益は前年同期比で 24 億円の増益ですが、油圧機器事業とロボット事業で同額程度の改善が見られました。それぞれの増益要因は次の通りです。 ＜油圧機器事業＞ 昨年度から進めてきた固定費の改善や価格転嫁による効果が大いと考えています。 なお、中国国内のショベル需要は、小型機を中心に下げ止まり、本年 3 月頃からは前年比で増加に転じた一方、中国からの輸出機の販売が鈍化しているため、当社の売上収益においても前年同期比で大きな回復は見られませんでした。

2024 年度第 1 四半期決算説明会における主要な質疑応答

質問	回答
	<ロボット事業> 半導体製造装置向けの販売が緩やかに回復傾向にあることや、中国における一般産機向けの滞留在庫の解消が進んでいることによります。 ただし、半導体向けの本格的な市況回復は今年度の後半を見込むほか、一般産機向けの在庫の解消には今年度いっぱいかかることから、本格的な採算性の改善にはもう少し時間がかかる見込みです。
パワースポーツ&エンジンについて、MULE PRO 1000 シリーズのリコールが発生したことや、オフロード四輪の市況環境に懸念が生じるなど、期初の想定に比べて事業環境が悪化しているように見えますが、24 年度通期の数量計画を据え置いた理由を教えてください。	第 1 四半期において、期初時点に想定していなかった事態が、以下のとおり 3 件発生し、事業の進捗に悪影響を与えました。しかし、市況の悪化懸念はありつつも、第 2 四半期以降のキャッチアップを目指していることから通期の数量計画は据え置きとしています。 1. リコールにより、主力機種であったMULE PROの1000シリーズの出荷を停止していた →対策の適用により、7月下旬より出荷を再開済 2. 2024年4月に稼働開始したメキシコ新工場の生産立ち上がりが、電力供給等の事情で遅れた →足元では生産が軌道に乗っており、順調に生産を進めている 3. 米国リンカーン工場でのRIDGEシリーズの生産が遅れ、競合の販売攻勢を受けた →7月には生産体制を整備。販売促進や広告宣伝を強化している
MULE PRO 1000 シリーズのリコールに係る損益影響額を教えてください。また、この影響は、2024 年 5 月に公表した期初計画にあらかじめ織り込まれていたのでしょうか。	本リコールの内容は、エンジン始動時に不適切な燃焼が発生し、火災に至る可能性があるというもので、当社では 4 月の中旬から 7 月下旬まで出荷を停止していました。その結果、出荷停止に伴う機会損失や不具合対応費用により、事業損益に対して数十億円規模の悪化影響がありました。 なお、当該悪化影響は、期初計画には織り込んでいません。